

令和8年9月22日(火)



近年「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」という言葉をよく耳にするようになりました。医療分野でもデジタル技術を活用し、医療や介護の情報を最適化・共有して、効率的で質の高いサービスを目指す「医療DX」が進んでいます。この波は「歯科DX」として歯科領域にも広がっています。

日本社会は今後さらに高齢化が進み、医療や介護を必要とする人は増える一方で、現場の人手不足が大きな課題となっています。これまで通りの診療体制を維持するのが難しくなる中、その解決策として期待されているのが

デジタル化

口の中を3Dデジタル画像として記録する口腔内スキャナー。歯科医療でもデジタル化が進む



医療DXです。

具体的な取り組みの一つが、マイナンバーカードを健康保険証として利用することです。医療機関で過去の受診歴や処方データを迅速に確認できるようになり、重複する検査や薬を減らせるほか、災害時の緊急対応にも役立ちます。

歯科分野のデジタル化も進んでいます。

す。例えば、小型カメラで歯形を精密に取る「口腔内スキャナー」を使えば、3Dデータを活用して詰め物などの設計・製作期間を短縮できます。またレントゲンやCT画像と人工知能(AI)を組み合わせて、矯正やインプラント治療の計画をより正確に立てられる

ようになり、患者と歯科医師双方の安心につながります。基礎疾患を持つ患者にとっても、歯科と医科が情報を連携することで、より安全な治療を受けられる環境が整いつつあります。

こうした高度なデジタル技術の導入は重要ですが、医療の基本はやはり早期発見・早期治療、そして何より予防です。人手不足が懸念される時代だからこそ、定期的な歯科受診を心がけ、疾病予防に努めることが大切です。

(県歯科医師会 学術委員 山元吉和)

安心安全な治療の一助